

## ワーキンググループでの主な意見

### ワーキンググループ構成

【参加者】社寺 4 人、観光関連団体 5 人、商店 12 人、学生 5 人、

【男女比】男性 19 人（73%）、女性 7 人（27%）

【年齢層】20 代：15 人（男性 9 人、女性 6 人）

30 代：8 人（男性 7 人、女性 1 人）

40 代：3 人（男性 3 人、女性 0 人）

第 1 回（7/11）＜議題とすべき今後の課題の抽出を全体で行った＞

観光客の一極集中、歩いて回れるコンパクトさはあるが市内周遊しにくい

宿泊施設が少なく夜の賑わいが無い

渋滞やトビケラにより印象が低下

地元の人も大切にしたい営業・取組が重要

情報発信の考え方・方法を見直すべき

第 2 回（8/1）

＜第 1 回で抽出した課題に基づきテーマごとにグループに分かれ課題の深掘りを行った＞

A グループ（社寺 2 人、観光関連団体 1 人、商店 3 人、学生 2 人）

テーマ 既存観光資源の活用、新たな観光資源の創出

- ・ 寺社仏閣は本来の役割を担いながら、様々な取組に柔軟に対応している。
- ・ 体験施設やコンテンツが少ないという意見もあるが、広報が足りていないのでは。
- ・ 本ワーキングのように、人を繋ぐきっかけづくりを支援してもらいたい。

B グループ（観光関連団体 1 人、商店 5 人、学生 1 人）

テーマ 夜間観光について（営業時間、イベント、宿泊施設）

- ・ 家族経営では夜間営業の負担が大きい、新規イベントは入込客数が読めない。
- ・ 交通の便が良いため、宇治観光をしても最終的には京都市で宿泊される傾向にある。
- ・ 宇治独自の資源を活かした夜のイベントを行ってはどうか。昼の中宇治、夜の小倉。

テーマ 受入環境の整備

- ・ 迅速・柔軟に活用できる支援制度があればコロナやインバウンドにも対応できる。
- ・ 施設整備は予算がかかるが景観保全や接客は一人ひとりの意識ですぐに取り組める。

C グループ（社寺 1 人、観光関連団体 3 人、商店 2 人、学生 2 人）

テーマ 観光客と市民の共存

- ・ 観光客を+ と捉えて地元を愛する土壌がないと観光客も来てくれないのでは。
- ・ 交通渋滞などの観光公害は周辺住民との対立が生まれる前に未然に対応しなければ。

テーマ 情報発信の考え方・方法

- ・ 情報発信を単発で終わらせるのではなく、平等院やお茶に組み合わせて発信しては。
- ・ 行政は情報収集に徹して、発信はプロに依頼する方が効果的ではないか。